

一炷ツ、に而去るし置、十炷終て後に本香包紙を開て記し、中に點を懸也、札十枚にて壹人に一枚ツ、にて事たる故、筒なき也、又札之紋なしに拵置、色々之組香を聞時々黒或は朱にて書替て、其組に順ひ用る事も有、左に圖ス、○圖略

香屏風之事

一香屏風、寸法表裏のかた等、古來の式有もの也、風雨の節、または夜分寒氣之節、杯は、香席の廻りに立置、風を防ぐべき爲也、廣き書院杯に而は、別て用べきもの也、香氣散じては聞分難き故也、寸法百ヶ條に有、

〔後訓栞後編三〕うぐひす○中略

十炷香の小包をさす串を鶯となづくるは、香にとまるといふ意也といへり、されどもと紙の小口をそろへんため、竹串を二本たて、刺たる其串をうぐいすと名づけしによれり、是は紙の四頭を齊ふするといふ義をよめる歌に、

宇佐も神熊野も同じ神なれや伊勢住吉も同じ神々、さればうぐいすと呼し也ともいへり、

〔香道秋の光上〕香筋之圖○圖略 烏木くろぎを以て作るべし、長さ五寸、かたち圖のごとし、

火筋之圖○圖略 總長さ五寸、柄二寸七分、穗二寸三分、金銀等を以て作る、柄は紫檀或は烏木にて作るべし、

香鍬之圖○圖略 長さ三寸五分、金銀等を以て作る、面に少し肉ありて裏は平なり、模様ようばうの繪好みに

随ふべし、其かたちは笏しやくにひとし、

火味之圖○圖略 金銀にて作る、寸法定れる法なし、世上通用のごとし、

銀鐺ぎんしょう之圖○圖略 金銀にて作る、長さ三寸五分、

鶯うぐいす之圖○圖略 銀と赤銅を以て、半ばよりいもつぎに作るべし、寸法志野流にひとし、

羽帚うぐいす之圖○圖略 寸法かたち、志野流にひとし、